

2017年3月期 第1四半期決算説明会

2016年8月8日

資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

垣内 永次

本日のアジェンダ

1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

連結業績 <2017/3月期 第1四半期>

(億円)	2016/3月期					2017/3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比	
売上高	561	737	530	768	2,596	622	61	10.9%
SE	347	472	320	517	1,658	412	65	19.0%
GP	147	165	138	161	612	114	▲33	▲22.5%
GA(印刷関連機器)	126	140	124	130	523	96	▲30	▲24.2%
PE(プリント基板関連機器)	20	25	13	30	89	18	▲2	▲12.0%
FT	63	96	69	87	315	93	30	47.9%
その他および調整	3	2	2	2	10	1	▲1	▲48.8%
営業利益	32	75	41	85	235	51	18	55.2%
営業利益率	5.9%	10.2%	7.9%	11.2%	9.1%	8.2%		2.3pt
SE	21	58	30	77	187	43	22	105.3%
GP	9	7	4	9	31	▲1	▲11	-
FT	1	14	6	5	27	12	10	627.5%
その他および調整	0	▲4	0	▲6	▲10	▲3	▲3	-
経常利益	34	71	41	84	231	50	16	47.2%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	22	62	34	68	188	37	14	64.0%

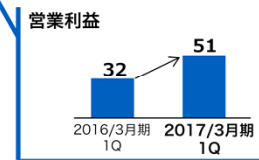
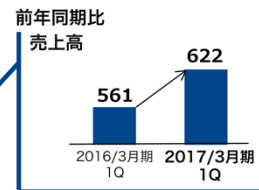
SE: セミコンダクターソリューション事業 GP: グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業
FT: ファインテックソリューション事業

1Q決算のポイント>>

- 前年同期比、増収増益（61億円の増収、18億円の増益）でした。
- SEセグメントは、1Qの受注が4Qを上回る高水準（491億円）となり、想定より上振れました。この状況を受け、上期と通期を上方修正します。
- FTセグメントの受注が、3四半期連続で100億円レベルになりました。（OLED関連の受注含む）
- B/S関連では、純有利子負債がなくなり、112億円のネットキャッシュポジションになりました。
- 8月5日に、JPX日経400銘柄への組み入れが決まりました。

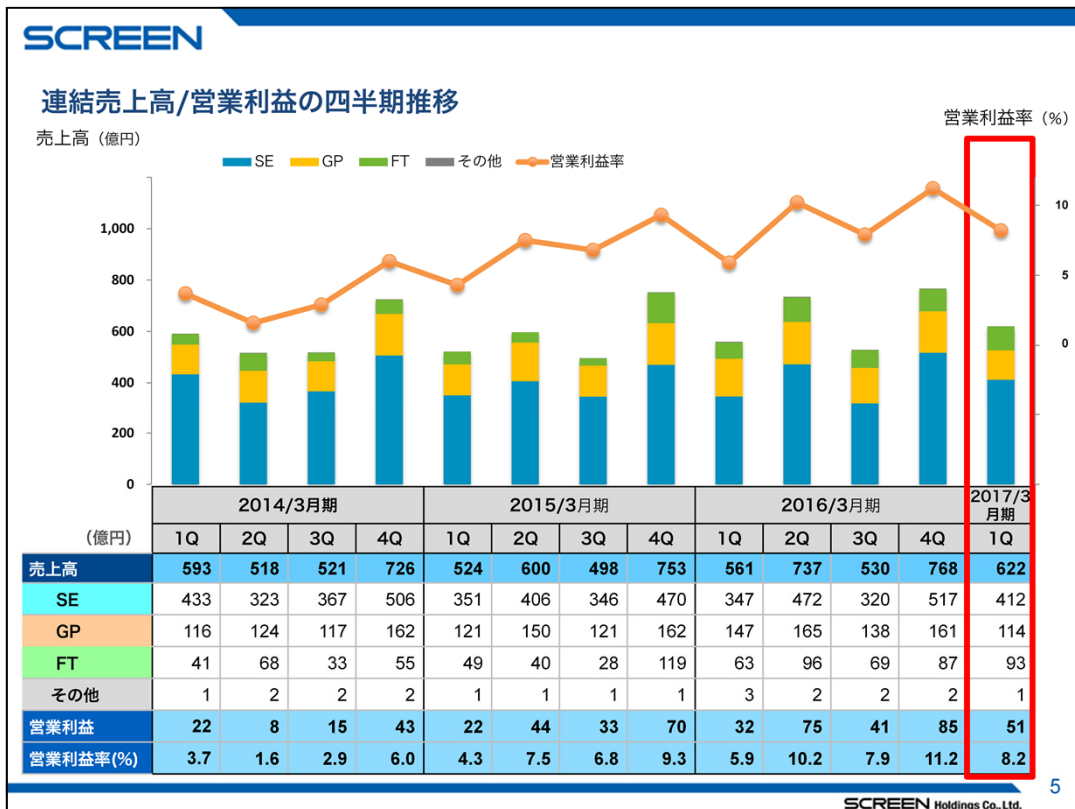
連結業績サマリー <2017/3月期 第1四半期>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	1Q		
売上高	561	622	61	10.9%
営業利益 営業利益率	32 5.9%	51 8.2%	18 2.3pt	55.2%
経常利益	34	50	16	47.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	37	14	64.0%

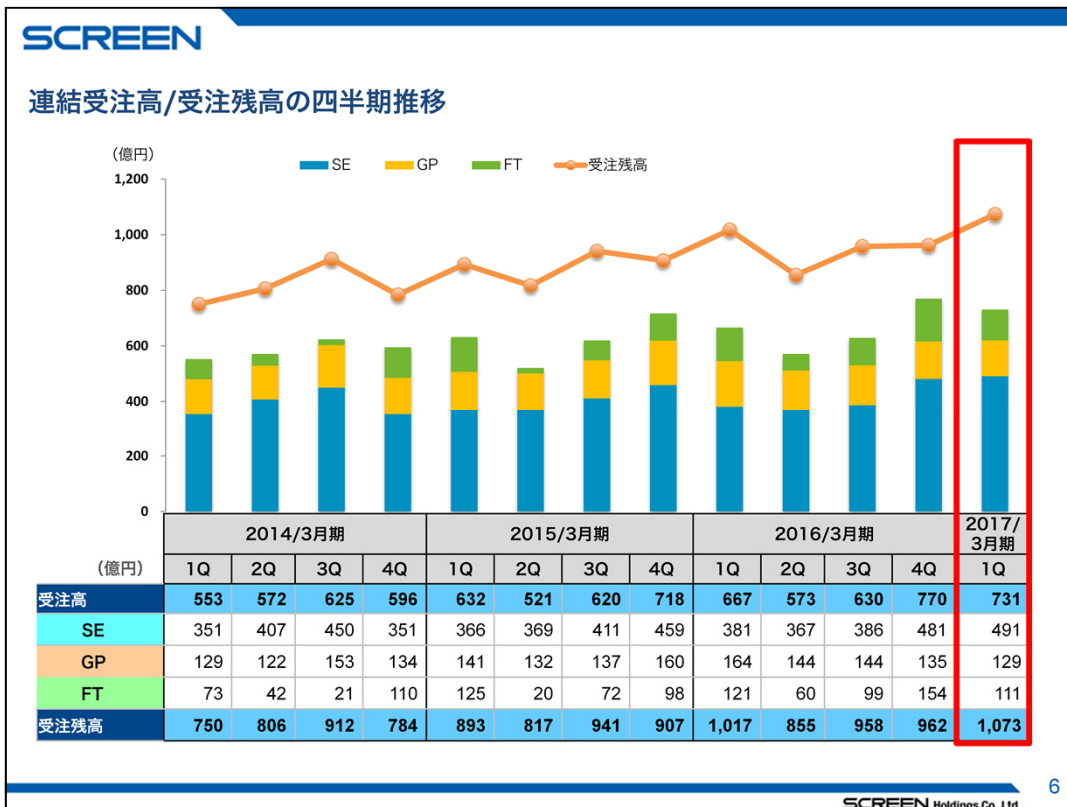


前四半期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	4Q	1Q		
売上高	768	622	▲145	▲19.0%
営業利益 営業利益率	85 11.2%	51 8.2%	▲34 ▲2.9pt	▲40.3%
経常利益	84	50	▲33	▲40.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	68	37	▲31	▲45.7%

- 対前年同期比では、1Qの売上と営業利益は、SEとFTともに増加しました。営業利益に関しては、売上増加に加え、変動費率の改善が寄与しました。
- 対前四半期比では、FTを除いて減収減益でした。営業利益に関しては、売上が高水準だった4Qからの減収が、減益につながりました。



1Qは、前期4Q比では減収減益であったものの、SEとFTの好調な業績により、過去3期の1Qの中では、売上、営業利益、営業利益率がすべて最高となりました。



- ・ 1Qの全社の受注高（731億円）は、4Qに続いて高水準となりました。
- ・ SEの受注高は、4Qの481億円を上回り、491億円と想定より上振れました。
- ・ FTの受注高は、三四半期連続で100億円レベルになりました（OLED関連含む）。
- ・ 受注残高は、1,073億円と高水準であり、過去3年（3期）の中では最高の四半期となりました。

以上の結果、今期の始まりとしては、好調なスタートを切ることができました。

1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

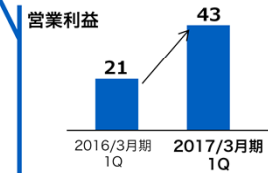
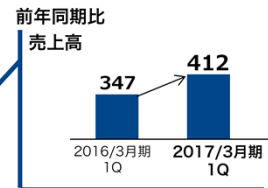
4. 2017年3月期 業績予想

5. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

セグメント別業績概況 <SEセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	1Q		
売上高	347	412	65	19.0%
営業利益 営業利益率	21 6.1%	43 10.5%	22 4.4pt	105.3%

前四半期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	4Q	1Q		
売上高	517	412	▲104	▲20.2%
営業利益 営業利益率	77 15.0%	43 10.5%	▲34 ▲4.5pt	▲44.2%



トピックス

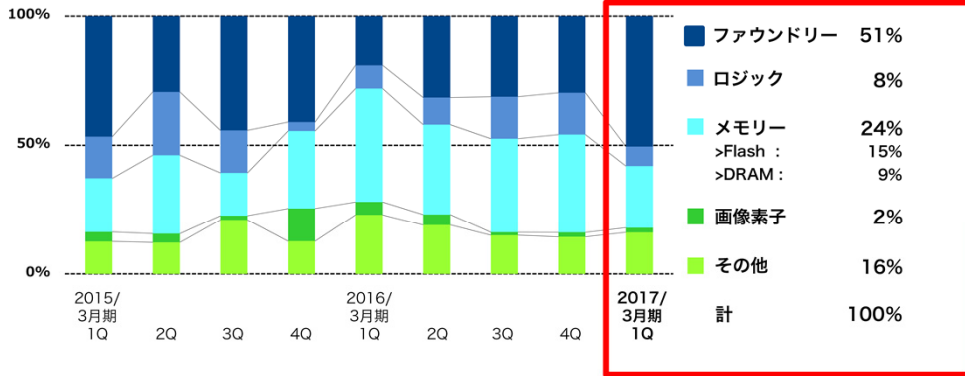
- 1Qはファウンドリーの微細化投資、フラッシュメモリー（3D-NAND）の投資が活発で、前年同期比、増収増益。
- 通期では、ロジック/ファウンドリーの微細化および3D-NANDへの量産投資意欲が旺盛。全体的には堅調に推移する見込み。

- ・ 対前年同期比では、1Qは、増収増益です。ファウンドリーとフラッシュメモリー（特に3D-NAND）が牽引しました。
- ・ 装置としては、枚葉・バッチ共に増加（特にバッチ）しました。
- ・ 地域としては、アジア（中国、台湾など）の伸びが顕著でした。
- ・ 対前四半期比では、1Qは、売上が高水準だった4Qからは減収し、減益しました。

デバイス別/地域別受注比率・四半期推移 <SEセグメント>

単独・デバイス別受注比率

*ご参考：連結受注高 491億円



地域別受注比率(2017/3月期 1Q)

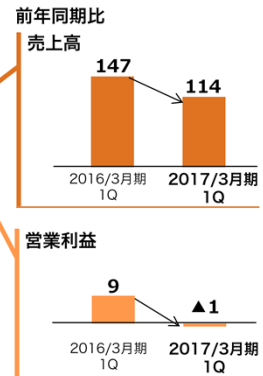


- ・ 1Qの受注高は、491億円と、4Q(481億円)をさらに上回り、500億円に迫る高水準となりました。
- ・ デバイス別では、5月時点の想定どおり、ファウンドリーが強く、比率が全体の51%に増加しました。
- ・ 2Qの受注見通しは、前期3Q並みを想定しています。

セグメント別業績概況 <GPセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	1Q		
売上高	147	114	▲33	▲22.5%
営業利益 営業利益率	9 6.7%	▲1 ▲1.2%	▲11 ▲7.8pt	-

前四半期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	4Q	1Q		
売上高	161	114	▲46	▲28.9%
営業利益 営業利益率	9 5.7%	▲1 ▲1.2%	▲10 ▲6.8pt	-



トピックス

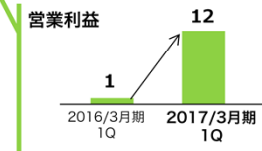
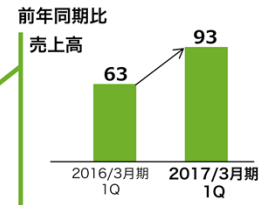
- 1Qは、為替が円高に推移したことと、世界最大の総合印刷機材展drupa（4年に1度、ドイツ開催）前の買い控えの影響により、前年同期比で減収減益。
- 今後は、為替変動は予想されるものの、北米を中心とするPOD販売の強化などにより、業績は回復する見込み。

- ・ 対前年同期比では、1Qは、減収減益です。
為替が円高に推移したことと、特殊要因としては、印刷業界最大の展示会drupa（4年に1度の開催）前の買い控えが影響しました。
2Q以降は、売上、営業利益ともに回復を見込んでいます。
- ・ また、プリント基板関連機器では、保守サービス会社をタイに新設（8月1日）し、今後、需要増加が期待できる車載用基板などを視野に、顧客対応の強化を図ってまいります。

セグメント別業績概況 <FTセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	1Q		
売上高	63	93	30	47.9%
営業利益 営業利益率	1 2.8%	12 13.5%	10 10.8pt	627.5%

前四半期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	4Q	1Q		
売上高	87	93	5	6.8%
営業利益 営業利益率	5 6.1%	12 13.5%	7 7.5pt	137.8%



トピックス

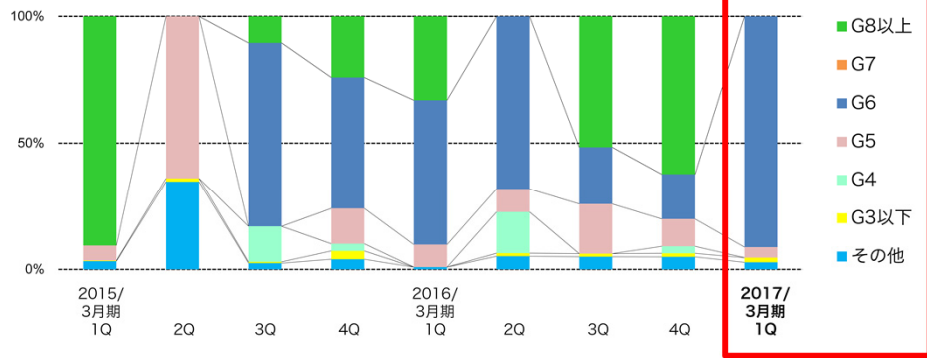
- 1Qは、前年同期比、中国向けの大型パネル用装置の売上は減少するも、国内および台湾向けの中小型用が増加。
- 受注環境は好調で、三四半期連続100億円レベルを継続。2Q以降もLCDに加え、OLED関連の引き合いも続き、堅調に推移する見込み。

- ・ 対前年同期比では、1Qは、増収増益です。
- ・ 中国向けの大型パネル用装置の売上は減少しましたが、国内および台湾向けの中小型用が増加しました。
- ・ 営業利益率は、変動費率の大幅な改善（VE効果が出ている収益性の高い中小型装置が貢献）により、13.5%に上昇しました。
- ・ 対前四半期比の1Qでも、増収増益です。
- ・ 受注環境は好調で、三四半期連続で100億円レベル（1Q：111億円）になりました。2Q以降もLCDに加え、OLED関連の引き合いも続き、堅調に推移すると見込んでいます。

製品サイズ/地域別受注比率・四半期推移 <FTセグメント>

単独・製品サイズ別受注比率

*ご参考：連結受注高 111億円



地域別受注比率(2017/3月期 1Q)



- 1Qの受注高は、前期4Qに続いて100億円越え、111億円になりました。
→受注の中身は、中小型が95%弱。
→地域別では、中国が70%近くありました。
→OLED関連および新規事業案件も入っています。
- 2Qの受注予想は、1Qに続いて100億円規模を予想しています（大型が半分以上と予想）。
→OLED関連も新規事業も含まれると見えています。

1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2017年3月期 業績予想

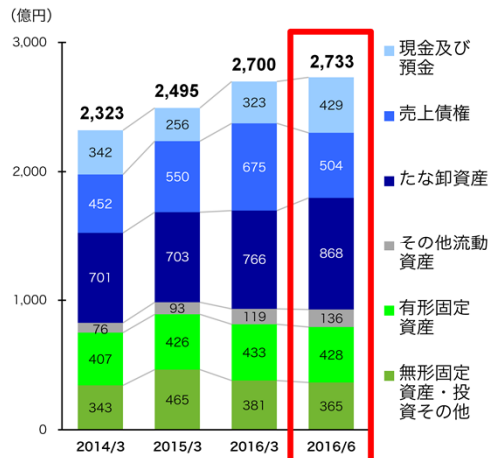


5. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

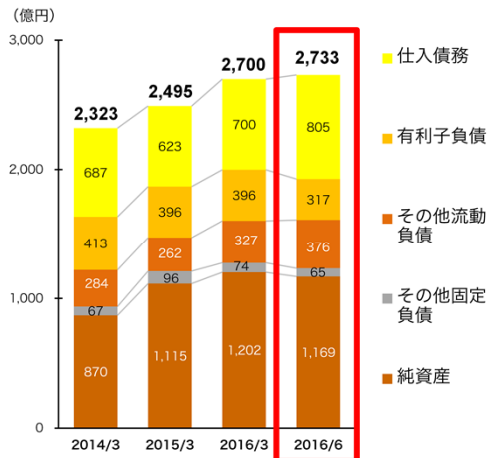


連結貸借対照表

資産



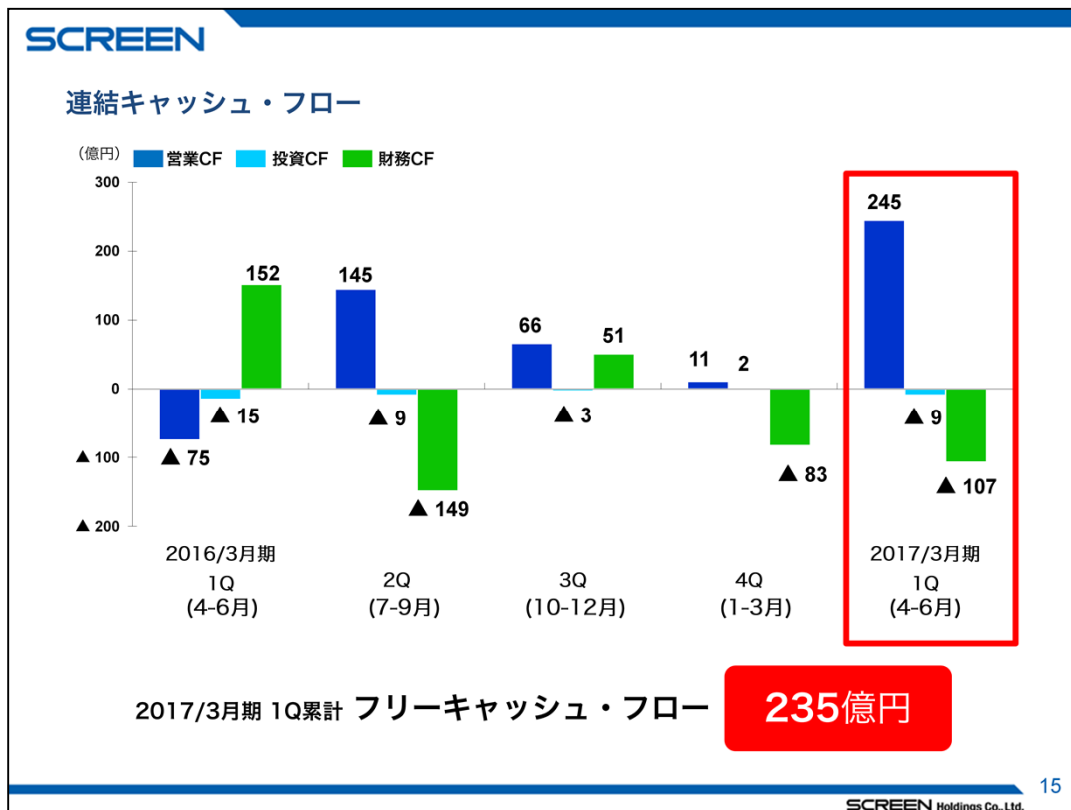
負債および純資産



自己資本比率 44.3% (2016/3月末) → 42.5% (2016/6月末)

前期末（2016年3月末）との比較：

- 資産合計は2,733億円。前期末比では、受取手形および売掛金や投資有価証券が減少した一方で、現金及び預金やたな卸資産が増加したことなどにより、32億増加しました。
- 負債合計は1,564億円。前期末比では、有利子負債が減少した一方で、仕入債務や前受金の増加などにより、66億円増加しました。
- 純資産合計は1,169億円。前期末比では、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上した一方で、配当金の支払いや、保有株式の時価下落および円高の影響により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が減少したことなどにより、33億円減少しました。
- 自己資本比率は42.5%で前期末比では、1.8pt低下しましたが、2017年3月末に向け、50%以上を目指しています。

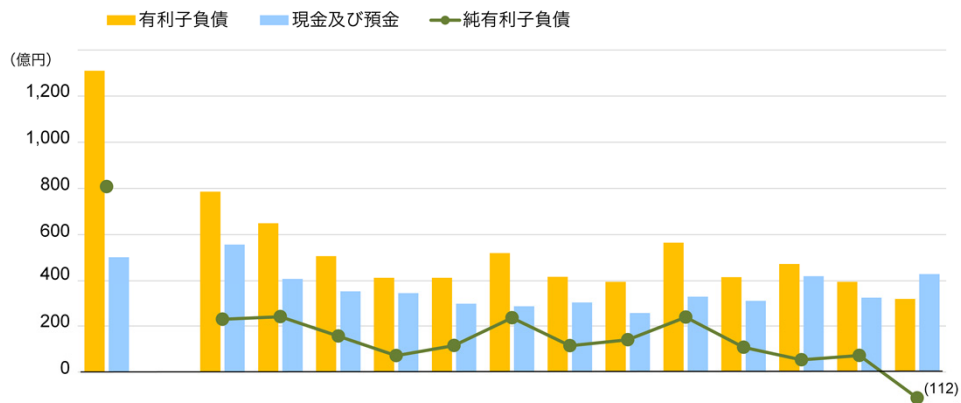


当第1四半期連結累計期間（2016年4月-6月）におけるキャッシュフロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：245億円の収入
前年同期（75億円の支出）比で、大幅改善し、リーマンショック以降、四半期で最大の営業キャッシュ・フローとなりました。売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回ったためです。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：9億円の支出
研究開発設備などの有形固定資産を取得しましたが、前年同期（15億円の支出）比で支出幅は減少しました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：107億円の支出
社債の償還（6月）や配当金の支払いなどにより、107億円の支出となりました。（前年同期は152億円の収入でした）

以上の結果、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末（2016年3月末）に比べ、110億円増加し、412億円となり、結果として、フリーキャッシュ・フローは、235億円の高水準になりました。

連結有利子負債



	2010/ 3月期	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/ 3月期
	6月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末
有利子負債	1,310	786	649	507	413	413	520	417	396	565	416	473	396	317
現金及び預金	502	557	408	350	342	298	285	302	256	327	309	420	323	429
純有利子負債	807	229	240	156	71	115	235	114	140	238	107	53	72	(112)

●有利子負債：317億円（前期末比：78億円減少）

●純有利子負債：▲112億円（前期末比：184億円の改善）

純有利子負債がマイナス、112億円のネットキャッシュポジションになりました。
（連結決算を始めて以来、初めてのことで）

純有利子負債は2017年3月末までには、ゼロを目標にしていたが、想定より前倒しで達成できました。

1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2017年3月期 業績予想



5. その他のトピックス（最近の取り組みなど）



2017年3月期 業績予想

(億円)	上期		下期		通期		増減
	5月発表	8月発表	5月発表	8月発表	5月発表	8月発表	
売上高	1,295	1,330	1,355	1,320	2,650	2,650	-
SE	815	869	840	821	1,655	1,690	35
GP	292	276	308	299	600	575	▲25
FT	180	178	180	182	360	360	-
その他	8	7	27	18	35	25	▲10
営業利益	113	117	157	153	270	270	-
営業利益率	8.7%	8.8%	11.6%	11.6%	10.2%	10.2%	-
経常利益	111	114	154	151	265	265	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	82	85	123	120	205	205	-

注) 想定為替レート>> 1 USドル=105円(107円)、1 ユーロ=115円(120円)
 ※ () 内は、5月時点の想定レートです。
 注) 年間配当金予想>> 期末配当1株当たり70.00円(2016年10月1日の株式併合後)

●2017年3月期の業績予想

- ・昨今の円高状況を踏まえ、想定為替レートを見直した結果、印刷関連事業(GP)の売上と利益が期初予想を下回る見込みとなりました。
- ・一方、SE事業では、足元の好調な受注状況(特に、上期のファウンドリーが好調)から、売上と利益が想定を上回る見込みとなり、上期と通期を上方修正しました。
- ・なお、全社の通期予想は5月からは、変更はありません。

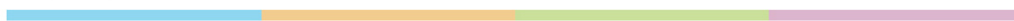
1. 2017年3月期 第1四半期 連結業績



2. セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2017年3月期 業績予想



5. その他のトピックス (最近の取り組みなど)



2016年5~8月

- **HD>>**
 - 企業価値向上を目指し、取締役会の実効性に関する評価を実施
 - 2016年 JPX日経インデックス400銘柄に選定される
- **GP事業>>**
 - 世界最大の総合印刷機材展「drupa 2016」（6月、デュッセルドルフ）で、PODやインク、ネットワークサービスの新製品をリリース
 - BHS Corrugated社（ドイツ企業）と独占的パートナーシップを締結
成長の見込める段ボール箱製造のインライン型デジタル印刷など、新分野に特化した会社を設立
 - タイ（バンコク北部）にプリント基板関連の保守サービス会社を設立
- **FT事業>>**
 - 次世代ディスプレイに対応した塗布装置をリリース
OLEDなどの高品質フレキシブル基板の量産に貢献

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

